



# 平成31年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年10月31日

上場会社名 トランス・コスモス株式会社  
コード番号 9715 URL <http://www.trans-cosmos.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼COO (氏名) 奥田 昌孝  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 上席常務執行役員兼CFO (氏名) 本田 仁志

TEL 03-4363-1111

四半期報告書提出予定日 平成30年11月5日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	137,689	8.7	1,600	13.1	2,104	46.1	5,232	
30年3月期第2四半期	126,640	8.3	1,841	51.1	1,440	57.2	238	91.3

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 7,845百万円 ( %) 30年3月期第2四半期 11,042百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	126.17	
30年3月期第2四半期	5.74	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第2四半期	136,178	76,947	54.0	1,774.56
30年3月期	129,067	71,199	52.4	1,630.39

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 73,600百万円 30年3月期 67,621百万円

(注) 平成30年3月期の連結財政状態は、会計基準等の改正に伴う会計方針の変更を遡及適用しています。

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		23.00	23.00
31年3月期		0.00			
31年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成31年3月期の配当予想は未定であります。

## 3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

当期の連結業績予想につきましては、合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。なお、当該理由等は、【添付資料】P.3「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しております。

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	48,794,046 株	30年3月期	48,794,046 株
期末自己株式数	31年3月期2Q	7,318,550 株	30年3月期	7,318,364 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	41,475,587 株	30年3月期2Q	41,476,096 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・決算補足説明資料は平成30年10月31日(水)に当社ウェブサイトに掲載します。

## 【添付資料】

## 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(会計方針の変更) .....	10
(追加情報) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用情勢や企業収益の改善、設備投資の増加に加え、海外経済の景気回復・持ち直しなどの影響もあり緩やかな回復基調で推移しました。一方、先行きについては、米中貿易摩擦の激化に伴う世界経済への影響懸念などから不透明な状況が続いております。

当社グループが展開するサービスを取り巻く環境は、労働人口の減少、企業のグローバル化、IoT・AIをはじめとしたデジタル技術の進展などを背景に、業務の効率化やコスト競争力の強化、売上拡大などに繋がるアウトソーシングサービスの需要が拡大しています。このような状況の中、当社グループは、既存サービスに加え、将来の成長に向けて取り組んできた新サービスなどを、日本および中国・韓国を中心としたアジア市場で積極的に展開し受注の増加につなげました。また、引き続きデジタル技術を活用した独自サービスの開発と提供、海外展開の加速化などに向けた取り組みを強化しました。

デジタル技術の活用に向けた取り組みでは、当社のAI研究所である「Communication Science Lab」の先進的な技術力と当社のこれまでコンタクトセンター運用で培ってきた運用ノウハウを融合し、コンタクトセンターにおける応対品質自動判定AIを開発しました。2018年度内の本格展開を目指しています。さらに、コンタクトセンターの音声認識環境の導入から運用までをワンストップで提供し、サービス品質向上と業務効率化を促進する、音声認識ソリューション「transpeech」の提供を開始しました。また、株式会社安井建築設計事務所、当社、および当社の連結子会社である応用技術株式会社の3社協業により、ビルオーナー・ビル管理会社向けにICTによる施設マネジメント・ワンストップサービスの提供を開始しました。

海外においては、日本のIT技術を活用し新たなスポーツ体験の提供を目的に、合同会社DMM.com、株式会社STVV（本社：ベルギー）、株式会社Candeeと当社の4社で、ベルギーのサッカースタジアムのICT化を目指したConnected Stadium（コネクテッドスタジアム）事業を開始しました。また、タイ王国において、連結子会社のグラントデザイン株式会社が開発・運営する生活者と店舗・ブランドをつなぐプラットフォーム「Gotcha!mall（ガッチャ!モール）」のサービス提供を開始しました。タイ王国で大きな影響力を持つ各大手財閥と連携し、すでにコンビニの「ファミリーマート」「ローソン」、スーパーの「TOPS」など、合計1,500店以上がタイの「Gotcha!mall」への参画が決まっており、今後も順次拡大していきます。また中国において、陝西省西安市、湖北省武漢市にそれぞれコンタクトセンター拠点を新設し、拡大し続ける中国市場でのサービス需要に向けた体制を強化しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高137,689百万円となり前年同期比8.7%の増収となりました。利益につきましては、前期より将来の成長に向けた先行投資の影響で販売費及び一般管理費が増加し、営業利益は1,600百万円となり前年同期比13.1%の減益となりました。なお、当第2四半期連結会計期間（平成30年7月～9月）において対前年同期比では増益となりました。経常利益につきましては、「投資事業組合運用益」の増加や「持分法による投資損失」の減少により2,104百万円となり前年同期比46.1%の増益となりました。また、特別利益において「関係会社株式売却益」を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は5,232百万円（前年同期は238百万円）と大幅な増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### (単体サービス)

当社におけるアウトソーシングサービスの需要拡大などにより、売上高は101,854百万円と前年同期比2.8%の増収となりました。セグメント利益は、前期実施の先行投資などの影響もあり1,248百万円と前年同期比36.0%の減益となりました。

#### (国内関係会社)

国内関係会社につきましては、上場子会社をはじめ受注が好調に推移したことや新規連結子会社の影響で、売上高は10,098百万円と前年同期比5.6%の増収となり、セグメント利益につきましては、一部子会社の事業再構築により採算性が向上したため344百万円と前年同期比56.4%の増益となりました。

#### (海外関係会社)

海外関係会社につきましては、中国、韓国におけるサービスの受注が好調に推移し、売上高は29,554百万円と前年同期比33.3%の増収となり、セグメント利益は、韓国子会社やASEAN子会社の収益性改善や欧州子会社の事業再構築の影響により、9百万円（前年同期はセグメント損失331百万円）となりました。

なお、セグメント利益につきましては、四半期連結損益計算書における営業利益をベースにしております。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて7,111百万円増加し、136,178百万円となりました。主な要因は関係会社株式の一部売却により「現金及び預金」が増加したことや、当該株式の一部売却に伴い残存保有株式を投資有価証券勘定に振替え、時価評価したことにより、「投資有価証券」が増加したことによるものであります。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べて1,363百万円増加し、59,230百万円となりました。主な要因は、「買掛金」や「未払法人税等」が増加したことによるものであります。

純資産の部につきましては、5,748百万円増加し、76,947百万円となり、自己資本比率は54.0%となりました。

## (キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べ1,507百万円収入が減少し、2,270百万円の収入となりました。この主な要因は、売上債権が増加（「売上債権の増減額」の増加）したことと、「その他」に含めております未払費用が減少したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、当第2四半期連結累計期間において5,490百万円の収入（前年同期は4,333百万円の支出）となりました。この主な要因は、「関係会社株式の売却による収入」が増加したことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べ539百万円支出が減少し、3,729百万円の支出となりました。この主な要因は、「配当金の支払額」が減少したことによるものであります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高は、前連結会計年度末に比べて3,357百万円増加し、35,130百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期については、引き続きお客様企業の売上拡大・コスト削減といったニーズに対し、より適合したサービスの創出に注力するとともに、アジア市場を中心としたグローバルで事業展開を加速させ、2桁成長の売上高と前期実績を上回る業績を確保することを目指します。

なお、当社グループの事業は、あらゆる業種・業界のお客様との取引で成り立っており、変化の激しい経済環境の中、短期的な視点で企業活動の動向を見極めることは大変困難であります。よって、当社グループの平成31年3月期連結業績予想については、合理的な算定ができないため記載しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	31,937	35,220
受取手形及び売掛金	42,238	42,938
商品及び製品	2,595	2,547
仕掛品	914	1,081
貯蔵品	42	50
その他	5,566	5,890
貸倒引当金	△304	△309
流動資産合計	82,989	87,418
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,738	4,774
工具、器具及び備品(純額)	4,035	3,817
土地	840	831
その他(純額)	662	774
有形固定資産合計	10,276	10,197
無形固定資産		
のれん	3,570	3,173
ソフトウェア	2,215	2,284
その他	453	566
無形固定資産合計	6,238	6,024
投資その他の資産		
投資有価証券	4,654	10,302
関係会社株式	9,482	7,432
関係会社出資金	6,664	6,393
繰延税金資産	1,385	478
差入保証金	6,604	7,197
その他	1,268	1,169
貸倒引当金	△499	△438
投資その他の資産合計	29,561	32,536
固定資産合計	46,077	48,759
資産合計	129,067	136,178

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	11,474	14,099
短期借入金	1,286	883
1年内償還予定の社債	7	7
1年内返済予定の長期借入金	1,737	1,746
未払金	5,202	3,645
未払費用	13,404	13,250
未払法人税等	2,352	3,659
未払消費税等	3,759	3,542
賞与引当金	3,639	3,732
その他	2,335	2,494
流動負債合計	45,201	47,061
固定負債		
社債	32	29
転換社債型新株予約権付社債	10,027	10,022
長期借入金	1,796	111
繰延税金負債	111	1,250
退職給付に係る負債	26	28
その他	672	727
固定負債合計	12,666	12,168
負債合計	57,867	59,230
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	29,065	29,065
資本剰余金	18,263	17,934
利益剰余金	33,381	37,127
自己株式	△15,234	△15,234
株主資本合計	65,477	68,892
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,265	5,263
為替換算調整勘定	878	△555
その他の包括利益累計額合計	2,144	4,708
新株予約権	3	3
非支配株主持分	3,574	3,343
純資産合計	71,199	76,947
負債純資産合計	129,067	136,178

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	126,640	137,689
売上原価	105,214	114,894
売上総利益	21,426	22,795
販売費及び一般管理費	19,584	21,195
営業利益	1,841	1,600
営業外収益		
受取利息	37	40
受取配当金	38	116
為替差益	211	103
投資事業組合運用益	28	519
その他	168	158
営業外収益合計	484	937
営業外費用		
支払利息	19	17
持分法による投資損失	734	316
その他	132	100
営業外費用合計	885	433
経常利益	1,440	2,104
特別利益		
投資有価証券売却益	313	299
関係会社株式売却益	—	6,664
その他	112	99
特別利益合計	426	7,063
特別損失		
減損損失	6	17
関係会社株式売却損	—	48
関係会社株式評価損	56	88
その他	238	16
特別損失合計	301	170
税金等調整前四半期純利益	1,565	8,997
法人税、住民税及び事業税	1,030	2,985
法人税等調整額	95	689
法人税等合計	1,125	3,674
四半期純利益	439	5,322
非支配株主に帰属する四半期純利益	201	89
親会社株主に帰属する四半期純利益	238	5,232

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	439	5,322
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,874	3,987
繰延ヘッジ損益	△5,193	—
為替換算調整勘定	△241	△1,000
持分法適用会社に対する持分相当額	△173	△464
その他の包括利益合計	△11,482	2,522
四半期包括利益	△11,042	7,845
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△11,265	7,796
非支配株主に係る四半期包括利益	222	48

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,565	8,997
減価償却費	1,024	1,129
減損損失	6	17
のれん償却額	253	267
無形固定資産償却費	388	430
貸倒引当金の増減額(△は減少)	32	△36
賞与引当金の増減額(△は減少)	△204	101
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	1	2
受取利息及び受取配当金	△75	△156
支払利息	19	17
為替差損益(△は益)	△211	△103
持分法による投資損益(△は益)	734	316
投資事業組合運用損益(△は益)	△28	△519
固定資産除却損	9	12
投資有価証券売却損益(△は益)	△313	△299
関係会社株式売却損益(△は益)	—	△6,616
関係会社株式評価損	56	88
持分変動損益(△は益)	119	△52
売上債権の増減額(△は増加)	819	△1,157
たな卸資産の増減額(△は増加)	△66	△198
仕入債務の増減額(△は減少)	△872	2,749
未払消費税等の増減額(△は減少)	196	△178
その他	1,354	△1,098
小計	4,809	3,713
利息及び配当金の受取額	87	206
利息の支払額	△20	△16
和解金の受取額	10	—
法人税等の支払額	△1,670	△1,633
法人税等の還付額	560	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,777	2,270

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△434	△80
定期預金の払戻による収入	454	138
有形固定資産の取得による支出	△1,929	△1,142
無形固定資産の取得による支出	△536	△688
投資有価証券の取得による支出	△516	△131
投資有価証券の売却による収入	580	841
関係会社株式の取得による支出	△1,454	△531
関係会社株式の売却による収入	0	7,898
差入保証金の差入による支出	△584	△865
差入保証金の回収による収入	295	176
貸付けによる支出	△504	△141
貸付金の回収による収入	434	89
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△39	—
その他の支出	△146	△128
その他の収入	49	56
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△4,333</b>	<b>5,490</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	542	148
短期借入金の返済による支出	△379	△511
長期借入れによる収入	100	30
長期借入金の返済による支出	△1,691	△1,706
自己株式の売却による収入	0	—
配当金の支払額	△2,154	△956
非支配株主への配当金の支払額	△38	△50
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△532	△558
その他	△113	△125
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△4,268</b>	<b>△3,729</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△24	△673
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,848	3,357
現金及び現金同等物の期首残高	33,422	31,772
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	737	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	29,311	35,130

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、投資時における子会社等の留保利益の取扱いを変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間における四半期連結財務諸表への影響は軽微であります。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	単体 サービス	国内 関係会社	海外 関係会社	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	98,968	7,341	20,330	126,640	—	126,640
セグメント間の内部 売上高または振替高	120	2,220	1,841	4,182	△4,182	—
計	99,089	9,561	22,172	130,823	△4,182	126,640
セグメント利益 または損失(△)	1,952	220	△331	1,840	0	1,841

(注)1 セグメント利益または損失(△)の調整額0百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

報告セグメントごとの売上高および利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	単体 サービス	国内 関係会社	海外 関係会社	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	101,662	8,484	27,542	137,689	—	137,689
セグメント間の内部 売上高または振替高	192	1,613	2,012	3,818	△3,818	—
計	101,854	10,098	29,554	141,507	△3,818	137,689
セグメント利益	1,248	344	9	1,602	△2	1,600

(注)1 セグメント利益の調整額△2百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。